

サンコールEV部品強化

「バスバー」大型受注 量産へ17億円投資

サンコールが電気自動車(EV)向け配電部品「バスバー」の生産を強化する。国内の自動車大手から大型受注を獲得し、2026年3月期までに17億円を投じて国内と北米の生産拠点到新たな製造ラインを整備する。世界的なEVシフトを見据え、量産に入る。

インバーター(電力変換器)などをつなぎ、大きな電流を通すことができる。

同社は主力の自動車エンジン用はねの製造で培った加工技術を生かし、ねじりを加えたリ、電流を測定するセンサーを付けたリした付加価値が高いバスバーを開発した。

バスバーは、銅などの金属素材の導体棒で、蓄電池とモーター、

回新たに自動車大手からEV向けの大型案件を受注した。26年3月

期のバスバーの売上高は当初60億円を見込んでいたが、上振れする見通しとなった。

生産能力を高めるため、25年3月期に愛知県豊田市と熊本県菊池市の生産拠点到計11億円の設備投資を行う。

米子会社サンコールアメリカ(インディアナ州)の拠点到にも26年3月期までに6億円を投じ、来年から生産を始



サンコールがEV向けに生産を強化するバスバー

める。

奈良正社長は「バスバーはEVだけでなく、さまざまな用途があると見込んでいたが、今回の大型案件の獲得で売り上げを一気に伸ばせる」と述べた。(田中俊太郎)